

学校法人 相愛学園

理事長 相田 芳久 様

令和5年度

学校関係者評価委員会 活動報告

学校関係者評価委員会 代表

渡邊 徹

令和6年3月8日

令和5年度

焼津幼稚園 学校関係者評価委員会

□ 本日の出席者

渡 邊 徹	委員長	(学識経験者)
松 永 美津代	委員	(学園 監事)
久保山 秀 美	委員	(学園 評議員)
萩 原 一 広	委員	(焼津市立焼津南小学校長)
山 本 敏 昭	委員	(第2自治会第3町内会長)
古 谷 啓 太	委員	(保護者)
見 崎 冴 子	委員	(保護者)

以上 7 名

□ 本日の日程

10 : 30	年間事業概要と園内自己評価結果の報告
11 : 10	園内環境見学・保育見学
12 : 00	昼 食 (給食試食)
12 : 30	関係者委員 協議
13 : 00	協議内容のまとめ
13 : 20	終了・解散

令和5年度学校関係者評価委員会

自己評価内容のまとめ

□ 教育目標

『明るく心豊かに』を建学の精神として、4つの目標を掲げ、それらを達成すべく独自の教育課程のもとに年間指導計画を立案し、日々の保育に精進する。

教育の4つの柱

- 1、じょうぶなからだに
 - 2、いのちをたいせつに
 - 3、やるきのあるこに
 - 4、よくかんがえるこに
- ・ 体験を通しての学びを中心とした総合的な生活環境の構築を進め、幼児期に身につけたい発達課題の達成を目指す。
 - ・ 情操の陶冶を主眼におき、感性の育成をねらっての造形教育、音楽教育や健全な心身の育成をねらっての体育指導、野外あそび、自然体験を園生活の軸とする。

□ 本年度の重点目標

- ① 遊びが充実するための園庭環境について、具体的な手立てを探り、実践していく。
- ② 生活や遊びを通して、子どもの体幹を育てていく。
- ③ 幼児、保護者ともに安心な園生活を送ることができるよう環境を整え、感染対策や防災について計画や振り返りを心がける。

□ 自己評価結果について

評価項目	自己評価	
	評価	取り組み状況・反省と改善策
① 本園での活動や行事が、幼稚園教育要領、本園教育課程や幼児の発達に即した内容、方法によって、適切に計画性をもって運営されているか。また、主体性を育むことを念頭において指導・援	B	・年度初めには、クラス担任以外の教職員全員で重点目標についての理解や大切にしていくこと等について共有する研修を実施し、共通理解を図るよう心掛けた。 ・園内研修のテーマとして、①昨年から継続しての研修“園庭環境の充実と子どもの育ち”について、②こどもの体幹を育てるという2つのテーマを設定した。①の園庭環境については学期末ごとに振り返りと次期への課題をあげて進めてきたが、課題に対する実践というてんでは今ひとつ成果がみられなかったことは反省に残る。②近年の子どもの表れから、子どもの体幹の弱さを

<p>助の工夫や環境設定、特に園庭環境についての工夫がなされたか</p>		<p>痛感していて、日頃の遊びや生活の中で、簡単なことでも継続して積み重ねながら体幹の育ちにつなげていくことを願い、進めてきた。実践してきていることについては成果がみられるが、体幹の育ちという点については、すぐに大きな表れとしてみられるものでもなく、振り返りを今後も進めながら継続していくことの大切さを感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して各クラス間での園内公開保育研修も実施し、子どもの主体性を育てるための環境や援助について考える場としてきた・学期末の振り返りや教育行事の事前事後研修に加え、教育課程の見直しも実施。研修の時間を作ることが難しくなっている中、行事等で多忙な時期には、どうしても保育者が集まって振り返りをすることが難しい。
<p>② 一人ひとりの幼児の思いや表現を大切に、保育者それぞれが、個に応じた指導・援助を工夫していたか</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、入園の時点での子どもの育ち、表れに幼さを痛感し、基本的な生活習慣の指導に重きをかけざるを得ず、今の子どもの姿に合わせて教育課程等の見直しも必要となり、難しさを感じる中でも、大切にしたいことについては共通意識をもって過ごせるようにしてきた。豊かな遊びや生活の中でこそ、自分の思いや感じ取りを表現できるであろうと考え、今後も工夫して実践していきたい。 ・子ども達の表われも様々で個別の援助を必要とする子が増えている現状の中、外部の専門機関とも連携しながら進めてきている。県私幼の子育て支援カウンセラー派遣事業や市の巡回相談、保育所等訪問支援事業等も活用し、外部の専門員とも情報交換しながら支援にあたっている。家庭環境も様々で、家庭での育ちが気がかりな様子もあり、保護者とも必要に応じて面談の機会を設けてたり働きかけたりしてきているが、子どもの育ちについて理解を共有することが難しい。外国籍の保護者との連携についても、丁寧に行っているが伝わりにくさを痛感する。
<p>③ 防災や保健衛生、特に感染予防が求められる中、子どもや保護者</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練については、毎月実施、主に津波避難に特化した訓練、火災訓練では火災による避難訓練と消防署が実施する花火教室を経験した。

<p>にとって、安心、安全な環境となっていたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12月には市の生活安全課の講話を伺う会を開催し、不審者対応の研修を行い、園内での対応を確認し合った。 ・学園の養護教諭の指導の下、子どもの健康管理について配慮をしてきた。年長児の視力検査については、通常の検査とは別に就学前に再度経験するなどの対応を行っている。 ・園の日常的な対応については保護者へ文書で知らせると共に、感染予防については機に応じて啓蒙を図っている。コロナの扱いも変わり、登園や教育行事の運営についても近年の運営の仕方の特長も残しながらコロナ前に戻し計画実践してきた。 ・7月半ばには、インフルエンザの流行により、一日臨時休園とし、宿泊保育前の年長については二日間学年閉鎖の措置を講じた。
-----------------------------	--

□ 協議・評価の観点

1. 幼稚園での活動や行事が、幼児の発達に即した内容・方法によって適切に運営されているか

保育者の援助や環境設定が、子どもの生き生きとした姿や主体性を育むことにつながっているか

(評価項目①)

2. 一人ひとりの幼児の思いや表現を大切にし、個に応じた指導・援助が効果的に実施されているか

(評価項目②)

2. 防災や感染症への対応がなされ、子どもや保護者にとって安心、安全な園生活となっているか

(評価項目③)

□ 学校関係者評価委員会の評価・意見 □

観点1についての評価

- ・今年度の特徴として、園全体で『体幹を育てる』ことに力を入れている。どの教師もこのことの重要性を実感している。そこで『継続性を大事に』という認識のもと、個に合ったステップ、テンポを考えて取り組んでいる。
- ・自分だけで解決しようとせず、他教師に相談する体制が確立されている。
- ・子どもに投げかけることばひとつひとつにも気配りをして、園児に対してしている。
- ・アンケートをとり、親の思いを聞き、子どもを見て育てようとしている。

評価 : A

観点2についての評価

- ・園児全体の絵画作品が保育室に展示されている。質の高い作品ばかりで、本園が力を入れてきた絵画指導の伝統が生かされている。また、目を引くのは、作品がどれも個性的で、個に応じた援助の積み重ねを見ることが出来る。アンケートを見ても個に応じた育ちが見られて、保護者の信頼が厚い。このように、個に応じた指導が十分にされていることがわかるが、これからも努力を続けてほしい。

評価 : A

観点3についての評価

- ・園庭にあった高い遊具が取り外されており、専門業者の点検も受けて危険防止が徹底されている。
- ・防災ヘルメットの置き方も、いつ危険が起きても困らない位置に収めている。
- ・屋上の避難所も、子どもの気持ちを落ち着かせる配慮があり、防災訓練も定期的に行われて、保護者も信頼を寄せている。
- ・養護教諭を中心に、全職員で感染症対策も行われ、教師の意識も高くなっている。

評価 : A

その他の特記すべき事項として（園からの反省・課題を含む）

- ・増えてきた外国籍の保護者との連携が難しい。
- ・生活環境の多様化に伴う以前とは違う園児の表れへの対し方に、配慮する点が多くなっている。今後さらに力を入れていってほしい。
- ・保護者の要望の多様化に、どう応えていくか苦慮するところもある。 など

以上、学校関係者評価委員会の評価報告と致します。

学校関係者評価委員会 委員長

渡邊 敏